

令和4年度第3回摂津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進審議会

<議事要旨>

開催日時	令和5年3月29日(水) 午後2時00分～午後4時00分
開催場所	摂津市役所 本館3階 301会議室
出席者 (委員)	石川委員(会長)、切東委員(副会長)、西田委員(オンライン参加)、下村委員、 百武委員、榎谷委員、市川委員、井川委員、松田委員、井口委員 増本委員、東委員、辻勝美委員、辻賀代子委員、吉村委員、佐々木委員
オブザーバー	摂津市社会福祉協議会 山本事務局長、辻課長
欠席者	武田委員、小坂委員、西川委員
事務局	荒井、浅尾、真鍋、細井、末永、池田、坂本、亀崎、吉田
案件	<p>1. 開会</p> <p>2. 案件</p> <p>(1) 令和4年度の主な取組について(資料1)</p> <p>(2) 第9期計画の策定に向けた調査の結果について (資料2、資料3、資料4、資料5)</p> <p>(3) その他(資料6)</p> <p>3. 閉会</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・摂津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進審議会 会議次第 ・委員名簿 ・私のエンディングノート ・【資料1】令和4年度の主な取組 ・【資料2】市民向け調査の追加項目について【報告事項】 ・【資料3】市民向け調査の結果について ・【資料4】摂津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 報告書(案) ・【資料5】摂津市在宅介護実態調査 報告書(案) ・【資料6】令和4年度 地域密着型サービス事業者の公募について ・【資料7】令和4年度第2回摂津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進審議会<議事要旨> ・【資料8】令和4年度第2回摂津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進審議会(令和4年11月11日開催)委員からのご意見・ご質問とその回答

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
1.開会	
あいさつ、欠席者の報告、資料確認	
2.議事 (1) 令和4年度の主な取組について	
事務局	<p>資料1の「令和4年度の主な取組について」をご覧ください。多くの内容がありますので、駆け足で割愛しながらの説明となりますが、ご了承いただければと思います。こちらについては、第8期せつつ高齢者ががやきプランの施策体系に基づいて説明します。</p> <p>まず、第1章の介護予防と健康づくりになります。まず、鳥飼新町の第21集会所での「委託型つどい場」の新規開設となります。4月から、鳥飼新町の第21集会所で、委託型つどい場を開始しました。開始当初には、来られる方が少ない時期もありましたが、現在は、1回あたり10人程度が参加しています。ただ、運営をしておりましたJOCA大阪から、「人員の都合上、令和5年度は運営が難しい」との申し出がありました。申し出を受けまして、市の方で改めて実施団体を公募したところ、1団体から応募がありましたので、4月以降も、運営団体は変わりますが、同じ集会所で継続して実施されます。</p> <p>続きまして、高齢者のための地域活動マップの関係機関への配布です。令和3年度末に改訂をした「高齢者のための地域活動マップ」について、市内の公共施設や医療機関に配布をしました。医療機関については、医療機関・歯科医療機関には郵送し、薬局には、生活支援コーディネーターとともに配布に周り、生活支援コーディネーターの活動の周知を、あわせて行いました。</p> <p>続きまして、元気リハビリ教室のケアマネジャー向け説明会です。「元気リハビリ教室」とは、米印に記載していますように、要支援者等が利用できる、3～6か月の短期集中型のデイサービスです。昨年度、地域包括支援センターがケアマネジャー向けに実施したアンケート調査で、地域包括支援センター以外のケアマネジャーの認知度や、詳しいサービスの内容の説明が不十分なのではないかとの課題があったため、ケアマネジャー部会の開催にあわせて、説明会を実施いたしました。</p> <p>続きまして、令和2年度から実施している「健康・生きがい就労トライアル」についてです。今年度は、3月1日に市民向け説明会を開催し、市民は20名、受入れをする事業者は6事業者が参加されました。また、順番は前後しますが、開催に先立ち、令和3年度に参加された市民や受け入れをした事業者にアンケート調査を実施しました。スライド8には、参加した市民の声を記載しています。全ての内容を読み上げることについては割愛いたしますが「仕事をしたいと思っていたが、体力面や</p>

仕事内容で不安があってできていなかった。安心して参加できた」「働きたいという人はたくさんいると思います」という前向きなお声をいただきました。スライド9には、参加された事業者の声を掲載しています。こちら、一部割愛しますが「人が手薄になってしまう時間に来てくれて助かる。介護職が専門的な仕事に専念できる」「最初はうまくいかないこともあったが、現在はよい関係性を築いている」というお声をいただきました。

続きまして、スマートフォン講座の実施です。こちらは、様々な事業者と協力し、様々な内容を実施しました。一番左側の民間業者との協力による実施については、民間業者が総務省の補助金をもとに実施しており、次年度の総務省の補助金次第となっていますが、その他の講座については、次年度も実施する予定となっています。実施に当たっては、広報を中心にお知らせをしますので、周りの方などにご興味のある方がいらっしゃいましたら、広報などをご覧いただくようお願いいただければと思います。

続きまして、「在宅生活・日常生活の支援」です。まず、社会福祉協議会の第2層生活支援コーディネーターが中心となり実施している、生活支援有償ボランティア「よりそいクラブ」の実施です。こちらは、令和3年度に市営三島団地をモデル地域として開始した、生活支援の有償ボランティア活動となります。担い手の養成状況等も鑑みて、現在、第1中学校区を中心に実施しており、そのほかの地域については、担い手の調整のつく範囲で、対応を行っている状況です。1月には、味生公民館で説明会兼担い手募集を行いましたので、今後も順次、担い手の養成と実施地域の拡大をしています。

続きまして、元気はつらつおでかけサポートについてです。こちらは、要支援者などを対象に資料に記載の目的で定期的に外出する際に、車両での外出を支援する住民団体を補助するもので、昨年度の4月から制度を開始し、5月から住民団体による支援が始まっております。5月から1月の間で、延べ344件の利用がありました。

続きまして、成年後見制度に関する市民向け講座の実施です。こちらについては、障害福祉課と高齢介護課の2課を中心に実施し、後見人活動をしているNPO法人権利擁護たかつきの講師を招いて成年後見制度に関する説明などを実施しました。参加者等については、現在集計中なので割愛しています。

続きまして、地域包括ケア体制の整備です。まず、中学校区別地域ケア会議の実施です。

令和元年度以降、中止や書面開催としていた、中学校区別に実施している、地域の取組や課題について話し合う会議ですが、今年度、4年ぶりに開催をしました。コロナ前は、各校区の会場を利用して実施していましたが、今年度については、感染防止のために、会場とオンラインの併用での開催となりましたので、オンラインの機器の都合上、どの校区についても、市役所の会議室を利用する開催となりました。

続きまして、サービス担当者会議の連絡を希望する薬局の調査と、調査結果の公開

についてです。5月に、市内の薬剤師会加盟の調剤薬局を対象に、サービス担当者会議の開催時に、連絡を希望するかの調査を実施しました。同様の調査は、令和2年度末にも実施しておりましたが、その際は、市内のケアマネジャー事業所へ情報提供するための調査としておりました。しかし、摂津市では市外のケアマネジャーが少なからず関わっていることや、令和3年度に実施したケアマネジャー向け調査で、ケアマネジャーによって参加を希望している薬局の認知度に差があったことから、市のホームページでの公開を前提として調査を行い、担当者名や参加しやすい曜日・時間帯、web参加が可能かどうかなどもあわせて伺い、ホームページで公開をいたしました。

続きまして、医療やケアの希望を記載するノートについてです。人生会議の普及・啓発に向けて、本日お配りしました「私のエンディングノート」を作成しています。なお、こちらのエンディングノートですが、官民協働発行となっており、今年度の12月末まで、1,000部限定での配布となっております。非常に好評であり、残部が少なくなっております。また、第1回目の審議会の資料として記載したお薬手帳サイズのノートについても、関係機関との打ち合わせを行い、作成中です。今後、大阪府作成の「人生会議の手帳」とともに、普及・啓発で活用していきます。

続きまして、認知症施策の充実についてです。まず、認知症に関する理解の普及・啓発を目的とした「認知症サポーター養成講座」についてです。こちらは、コロナ期間中も、定例的に実施している小規模な講座については継続的に実施しておりましたが、今年度は、11月13日に実施した「介護の日」のイベントでも実施をしました。休日の開催だったこともあってか、定員となる12名が満員となりました。また、市職員向けの認知症サポーター養成講座についても、令和元年度以降、中止となっておりますが、再開をいたしました。今年度は、窓口対応を行う職員を中心に、計38名が受講をしました。今後も、全職員の受講に向けて、継続的に実施していきます。

次に、ひとり歩き声かけ模擬訓練です。こちらは、認知症によりひとり歩きをされている方への声かけの体験を兼ねた模擬訓練となっております。記載の日程・場所で実施をしました。

次に、令和2年度以降は感染防止のためにweb開催のみとなっていた「認知症市民公開講座」ですが、3年ぶりに、会場での開催を再開しました。当日欠席もありましたが、定員150名のお申し込みがあり、盛況な講座となりました。

続きまして、介護サービスの充実についてです。まず、11月に実施している「介護の日」のイベントですが、3年ぶりに、会場での開催をしました。令和2年度以降Web開催となっております。一部事業所作品展の投票などもWebを活用して会場での開催とWebでの作品展の投票の受付という形での実施となっております。

次に、介護サービス事業所への補助金や支援金についてですがコロナウイルス対策や物価高騰対策としてこちらの内容の補助金・支援金の交付をしています。なお、配付した資料は2月末現在の交付状況となっておりますので、それぞれ11事業所

	<p>と 32 事業所となっておりますが、3 月 23 日現在では、コロナウイルス対策の補助金が 52 事業所、物価高騰対策支援金が 86 事業所から申請をいただいております。どちらの補助金、支援金につきましても 3 月末までの受付で必着となっておりますので、事業者には何度か申請期限をご案内し、申請を促しております。</p> <p>また、居宅介護支援事業所向けに、求人の状況や雇用状況等を尋ねる、人材確保に関するアンケート調査を実施しました。今後、摂津市でケアマネジャー業務を行うに当たって、高齢介護課に求めることなども伺っており、この調査結果を高齢介護課の取組に活かし、ケアマネジャーの業務が行いやすくなるよう活用していきます。</p> <p>また、6 月になりますが、市内の介護施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅を対象に、クラスター対応の研修会を実施いたしました。</p> <p>最後に、計画とは少し異なりますが、高齢介護課の YouTube チャンネルについてです。一般公開となっている内容としては、摂津市での要介護認定の申請方法の説明動画、新型コロナウイルス第 7 波の影響で中止となった「老人作品展」に出展予定であった作品の紹介動画、介護の日の際に上映した、市内の福祉系大学の授業風景の動画などを公開しています。また、チャンネル自体の用途としてはこちらが中心にはなっていますが、医療・介護関係者向けの限定公開の内容として、摂津市の医療・介護関係者向けに実施している「地域多職種連携の会」等の動画を掲載しています。詳しくは、検索サイトなどで「摂津市高齢介護課 YouTube」と検索していただきますとチャンネルが表示されますので、興味のある方はご確認いただければと思います。</p> <p>以上が令和 4 年度を取組となります。総括しますと、年度当初から 1 月頃までは、コロナウイルスの影響もあり、Web を活用した取組や、冊子などの作成・配布、周知・啓発などを中心に行いました。年度末が近づくとつれて、過去と比べれば規模を縮小した形にはなっていますが、徐々に、中止となっていた会議や研修会等、人の集まることについても、再開していています。令和 5 年度については、新型コロナウイルスが 5 類感染症に移行される予定であり、感染拡大への注意は行いつつ、より一層、各種活動の再開に向けて取り組んでいきます。また、後ほどアンケート調査の結果でもお伝えしますが、コロナ禍での外出自粛による身体機能の低下の恐れや、地域のつながりの減少等がございます。こうした影響への対応に向けて、外出機会の確保や、コロナの感染リスクが低い形でのつながりづくりについての試行的な取組を行っていきます。</p> <p>以上、長くなりました、令和 4 年度を取組に関する説明となります。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。今年度の主な取組をご報告いただきました。冒頭、課長から話があったように第 9 期の計画をこれから本格的につくっていく段階なのですが、第 8 期でいろいろ議論した内容、例えば医療と介護の連携であったり、ICT の活用という部分だったり、移動についてもいろいろな議論がこの審議会でされたと思います。そういった議論を経て取組まれた内容についての現在の取組も入っていた</p>

	かと思えます。幅広いご意見、ご質問などいただけたらと思えます。皆様いかがでしょうか。
副会長	<p>よくやっていると思えます。2つだけあります。1つ目は第2章のスライド12番の有償ボランティア「よりそいクラブ」についてです。これは今、第1中学校区しかやっていないのですが、いい取り組みなので早く他の中学校区へも広めてほしいと思えます。</p> <p>2つ目はスライド26の介護支援事業所向け人材確保アンケートです。結果から、ケアマネジャーの悩みや困りごとがわかりますから、それを集計するだけではなく、その結果をせっつ医療・介護つながりネットというのがあったので、そこで調査結果を発表し、悩んでいることへのアドバイスや、先生や有識者のヒントやコメントがあってもいいと思えます。現場に役立つ知識などを、ネットであればすぐに発信できると思うので、対応してあげたらケアマネジャーのためになるのではないかと思います。</p>
委員	先ほどおっしゃった、よりそいクラブのことですが、よりそいクラブの活動と生活支援コーディネーターの活動について、令和4年度にケアマネジャー向けに地域包括支援センター主催で研修会をしております、そのときによりそいクラブのこともご紹介いたしました。ご利用者は1中校区の方が多いのですが、現在は広がってきておまして、3中や2中、4中の方にも広がってきておます。徐々に担い手の募集もしておりますので、そちらにもご協力いただきまして、今後また広がってくると思っております。
事務局	よりそいクラブの地域拡大についてですが、事務局としても地域の拡大をしていくという想定はしております。地域を順次拡大している事情としましては、担い手の登録より依頼が入ってくる方が多いと思っており、依頼があっても、近くの担い手がない場合には、ボランティアに行くまでに時間がかかってしまう可能性がございます。そのため、担い手が多い地域を中心に実施している状況です。昨年度、モデル的な取組を市営三島団地で開始したこともあって、第1中学校区の担い手が多い状況となっておりますので、第1中学校区を中心という形でやっております。ただ、生活支援コーディネーターに相談がありましたら、担い手の調整のつく範囲で他の校区でも派遣している状況です。1月に第4中学校区で担い手の養成を行ったことから、第4中学校区にも次年度広げていこうという形にしております。今後も担い手の養成をしながら対応地域の拡大をしていくという形で考えております。
会長	よりそいクラブですけれども、介護保険の非常に重要なポイントは幾つもありますが、自身や市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりに、住民の方がどう参加していくのかというところです。その1つの形がよりそいクラブですので、今ご質問やご意見があったように、どうすれば住民の方が生き生きと参加していただき、担い手を増やせるのかということは1つの課題です。例えば、スライドに続いてある「元気はつらつおでかけサポート」も1つの市民参加の支援です。そのため、今は代表的に

	<p>よりそいクラブとおでかけサポートがありますが、それ以外にもいろいろな取組があると思います。つなげていけば、最初にありましたつどい場づくりも今 9 カ所で行っています。その 9 カ所それぞれの担い手が活動してくださっていて、この中にも担い手がいらっしゃるわけです。実は先ほど報告があったつどい場の運営団体の変更について、JOCA 大阪の撤退は JOCA 大阪の都合なのですが、この後を担われたのが既に別のつどい場を運営している団体で、実は限られた団体で、ものすごくフル活動してくださっている状況です。それ自体は本当にありがたいのですが、ほかにもっと新しい、いろいろな方が参加してくださらないと、とても大変な状況ではないかと思えます。市民の方が参加しやすいような機運づくりも非常に課題になると思えます。ケアマネジャーの方々の悩みもあるのですが、市民の方々の参加のしやすさも課題なのではないかと思うのですが、その点、委員はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>つどい場もスタッフとして入っていますし、21 集会所も行ってくれと言われていきます。遠いので毎週は入れませんが、月 1 回ぐらいならと思っています。よりそいクラブにも、一応担い手として登録しているのですが、私は 4 中校区に住んでいます。鳥飼方面の方のところにも何回か行かせていただきました。有償ボランティアということで、簡単な掃除や生活支援なので 30 分ぐらいで終わってしまうのですが、それがいいかなと思います。介護保険ではできないところを主にしていますので、30 分ぐらいで 500 円いただいてうれしそうに帰るのが、お互いにいいかなと思います。担い手も増えつつありますし、先日交流会があったときに、ボランティアをしたいという希望の方が結構おられたので安心しています。私も歳で、実際に後期高齢者で、人の家を掃除しに行くより我が家を掃除しろという感じなのですが、それをまたほかの方にしてもらったらいいいかなと思っています。先ほど言われたように、若い人がもっと入ってきてくれたらいいかなと思います。</p>
会長	<p>この取り組みは、本当にいろいろな側面があります。</p>
委員	<p>少し情報提供ですが、1 月 30 日に味生公民館でよりそいクラブについての説明会を生活支援コーディネーターが主催したと聞いております。既にボランティア登録をされている 3 名を含めて、15 名の方が参加されているいろいろ説明を受けた中で 8 名の方が新たにボランティア登録をされたという報告も受けております。このようにどんどん地域的に広げていける方向で、積極的に取り組んでいきたいなということでやっておりますので、ご報告しておきます。</p>
委員	<p>1 点目は 2 番目の「住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくり」になりますが、私の地域は自治会があったのですが解散しました。その中で、認知症になられた方がいるのですが、私なりにアドバイスを、家族の方は市役所に行き、手続きしてくれました。しかし、何が問題かという、ごみです。ごみ収集の件で、以前も高齢者が資源ごみのケースを出すのに大変つらくなってきたということで、市の職員に提案したのですが、小さいものにしましょうかという感じで、それだと数が増えます。プラスチックのケースもかなり重いので、収集体系を今後考えていかないとい</p>

	<p>けないのではないかと思います。その認知症の方は息子が来られて掃除をされて、ゴミ袋に分けているのですが、本人は全部出してしまいます。ステーション方式は人件費のこともありますが、今後、高齢者が一人で生活しても、日常生活で迷惑をかけないような方法を考えていくべきではないかと感じました。いまだに、ゴミが何でも出せると勘違いしている方もいます。ゴミの収集を茨木市と共同で行うことになりましたが、他市に持っていくときには、他市がやはり分別します。ただ、すぐに徹底できないから、従来そのまま収集するときいています。ゴミ行政について、今後考えていただきたいです。自治会があればいいのですが、ないので、そういうことを考えていただきたいと、要望だけしておきます。</p> <p>おでかけサポートの件ですが、利用者と話をするのですが、今は摂津市内だけしか送り迎えができません。買い物については市内でお願いできますが、摂津市の病院にかかっておられても、そこからの紹介で近隣市へ行かれます。現在は、そのときに利用ができない。しかし、車いすの方が利用されている移送については市外に行けます。なぜその差があり、このおでかけサポートでは出られないのか、その点をよろしくお願いします。かなり要望があります。どうして市外の病院に行けないのかとか言われるので、その点の検討をお願いしたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>資料8にもこの点が関わってくるかもしれませんが、事務局からお答えいただいてもよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>おでかけサポートについての回答になります。委員からご提案いただいた、市外の病院への対応という形ですが、資料8の2ページ目に高齢者移送サービスとおでかけサポートとピンチヒッターの3つの移動の支援について記載しております。</p> <p>市外の病院への対応ですが、おでかけサポートについては要支援1・2という比較的介護度の軽い方への介護予防のためのサポートとなっております、主に比較的短距離の外出を対象としております。そのため、摂津市内という条件をつけております。</p> <p>高齢者移送サービスで市外にいけるということについてですが、こちらは車いすのまま乗車できる福祉車両での移動をサポートするものとなっております。対象者が、外出時に車いすでなければならない人ということになっており、車いすでなければならない人は交通機関の利用にも制約があり、より遠方まで行く際の支援も必要ということで、近隣市への通院も可能としています。</p> <p>おでかけサポートについては、決まった場所への定期的な外出として、短距離の移動をサポートすることを目的としておりますので、市内という形に限らせていただいています。今後多くの方が利用するという点でも、遠方に行ってしまうと、どうしても1回の移動の時間がかかり、利用者も限られてしまいます。まずは摂津市内での移動を中心に調整しまして、その上で、市外へ行っても他の利用に支障がないようなら、そのときに市外の移動を可とするか検討させていただきたいと思っております。</p>

会長	委員、今の事務局の回答でいかがでしょうか。
委員	そういう条件であれば、そのようにまた説明をさせていただきます。
委員	<p>本日、このような立派なエンディングノートが配られました。8期の市長の言葉や統計にもあるように、一人住まいの高齢者が増えています。今、ひとり暮らし登録をしている人だけでも千二、三百人いらっしゃるということです。ノートにはひとり暮らしをされている人の最期として、本人がどういう仏壇がいい、どうして欲しいということを細かく書いてあって、すごく便利で必要なのは明らかなのですが、一人住まいの方がこれをもし書いておられても、ひとり暮らし登録をされてない方がたくさんいらっしゃいます。死後の始末が書いてあるのはいいのですが、ご近所ともお付き合いのない方がそのような場面になったら、市としてはどうされるのかなと思いました。1週間ほど前にテレビで見たのは、神奈川県ですが、一人暮らしの方の埋葬に市が困っているということでした。それで、終活センターというものを市がつくられて、そこの職員が始末しているということを知りました。そういうことは摂津市ではどうなのだろうと思いました。私の場合は、娘2人で夫が亡くなっています。先祖のお墓が2つあって、娘にも言いましたが自分自身のことも考えると墓守はできないから、お寺に墓じまいの手続きをしてあります。亡くなっていく人にはわからないのですが、そのような事柄を市としてはどのように受け止められているか伺えればと思います。</p>
会長	これは次の議題にも関わってくるかもしれませんが、今回のスライド18にある8期以前からのテーマです。医療と介護の連携ということで、特に終末に向けての対応ということで摂津市も一歩進んだわけですが、それにしてもいろいろな疑問があるということですね。
委員	今までそういう事例はないのですか。
会長	たくさんあったと思います。
委員	それをどういうふう処理されたのですか。
事務局	<p>ご質問いただきました、一人暮らしの方で亡くなったときに身寄りのない場合、どうしているのかということですが、実際摂津市内でも身寄りのない方が亡くなるということもございます。そちらにつきましては墓地埋葬法という法律で、亡くなった瞬間にいた市町村が火葬してお墓に入れるということになっております。正確な件数は手元に持ち合わせておりませんが、毎年何件かございます。そのときには、市が葬儀会社を手配して火葬し、無縁仏として納骨をさせていただくという形になっております。</p> <p>前段のお話で一人暮らしの方が書いたエンディングノートをどのようにして見るのかというご質問だったと思いますが、それにつきましては、このノートの啓発をしていくにあたって、「人生会議」として自分の家族や医療関係者、介護関係者とともに、自分の希望としてこういったものを書いていて、ここに保管しているということ</p>

	<p>を話し合っていきたいと思いますという啓発を行っていく予定です。今までは、自分で書いて、どこかに置いて、いざ亡くなったときには使われないということであったかと思いますが、書いていることを遠方に住む家族あるいは医療、介護の関係者と話し合っていきたいと思いますという啓発し、書いたものを関わる人と共有したいと思いますというのを啓発していきたいと考えております。</p>
会長	<p>おそらく、第9期に向けて新しく課題となってくることとして、今委員からご指摘いただいた終活の支援というか、よりよい死への支援ということで、多死時代への対応が必要です。既にいろいろな事案を市役所でも担当されているのですが、そこから漏れ出てくる場合もあります。家族も存在はしているけれども、その関わりに濃淡があり、家族がいらっやらないほうがまだ対応が可能かもしれない場合があります。家族がいるけれども深く関わっていない場合にどうするのかとか、調査にもありましたが、どこまで話し合っているかといっても、話し合う相手や家族との関係が良くない場合には、非常に難しいことがあります。しかも、普段は関わりがないのに、何かあったときに登場されるとなると、さらにややこしくなるということもあります。先ほどのおでかけサポートもそうなのですが、いろいろと困っている案件がたくさん存在しているはずで。私も委員と同じニュースを見ました。社会福祉協議会が終末期のサポート事業を行っていました。そういった具体的な、新たな事業に結びつけるには、やはり実態調査が必要です。もちろん一つ一つの事案は大切なのですが、それがどれぐらいの数でどんなふうになっているのかということを確認しながら、どのようにそこに制度設計をできて、していくのか。あるいは、できなかったらどうするのかということを確認していく必要が、移動支援にしろ、終末期支援にしろ、あるのではないかと思います。</p>
副会長	<p>亡くなられるときは医療機関に来られます。うちの病院で、年に1~2件そういう方が来られます。5件もないと思います。先日、他の委員とも話をしましたが、施設でもそういう事例があります。やはり経済的に困窮している方がほとんどです。家族がいても全く関係性はありません。そういうときは市役所の、摂津市は主に生活支援課と連絡をして、連携をとっています。委員とも、こういうときでも市役所の担当部署が相談に乗ってくれるので僕らもやっていけますとお話していました。幸い摂津市は割とコンパクトな市で、みんな顔が見えている関係なので、施設であろうが医療機関であろうが、そういうことがあれば、必ず市の担当者が対応してくれるので、現実としては連携でやっていけていると思います。だから、そういう人をつくらないためにも、つどい場などに一人暮らしの方を1人でも多くつなげていってくださることが、委員となってくださっている皆様の役目かなと思います。</p>
委員	<p>必ずしもつどい場などに行かれない方もおられます。</p>
副会長	<p>いらっやいます。それでも、お声がけをしたり、あるいはライフサポーターにつなげたり、介護保険に乗るという方法もあります。元気な人でも病院に来る人はどこか病気で、どこかが弱っているから、介護の認定を受ければケアマネジャーがつきま</p>

	<p>す。だからそういう社会制度にうまく乗せていくということが、私たちのように、ここに参加している委員の役割の1つかなと思っています。</p>
委員	<p>摂津市ではないですが、よく、死後何日目とかのニュースを聞きます。</p>
副会長	<p>報道であった市と比べて摂津市は人口規模が小さいので、あそこまで多くはないです。しかしゼロということでもないです。ただし、そういうことになったときには必ず連絡すれば対応してくれます。</p>
委員	<p>全市民8万6,000人余り、一人住まいか家族構成とか、提出していない方もいらっしゃるかもわからないけど、みんなそうですか。</p>
副会長	<p>なるべく拾っています。それは民生委員等のおかげと感じます。私が感じるのは摂津市の民生委員はこまめに一人暮らしの方を周っていると思います。だから、見て少し弱っている人には、病院に行ったらとか、ワクチン接種したらとか、お声をかけています。私の印象ですけれども、摂津市の民生委員はよくやってくださっていると、いつも思っています。</p>
委員	<p>安心しました。</p>
会長	<p>ちなみに、死後や終末の問題はそういったことがあるので、高齢者の一人住まいが難しいというか、居住の問題が出てきます。新しく光協会も居住支援法人の指定を受けました。居住支援法人というのは、家を借りることと、それに連動した死後の対応も、全国的に非常に期待されている存在です。そちらのほうとも連携できればいいのではないかと期待しております。ただ、これは単独の居住支援法人だけでできるものではなくて、ほかの医療機関、福祉機関、市役所等の連携が必須の取組だと思えます。</p> <p>それでは、案件2です。今の議論にも非常に深く関わっている内容ですので、案件2の第9期計画の策定に向けた調査の結果について、事務局からご説明をよろしく願います。</p>
<p>2. 議事 (2) 第9期計画の策定に向けた調査の結果について</p>	
事務局	<p>まず、「【資料2】市民向け調査の追加項目について【報告事項】」をご覧ください。こちらについては、前回の審議会の際にいただいたご意見と、調査への反映についてまとめたものとなりますので、報告事項としてお伝えします。</p> <p>まず、保健福祉に関するアンケート調査ですが、「どの範囲で買い物をしているかなど、移動範囲についての調査項目を設けてはどうか」というご意見をいただきました。こちらについては、「より地域の実情を知るために」ということでご提案いただいたものとなりますが、前回の調査ではお住いの地域について、「安威川の北か南か」ということのみ伺っていましたが、今回の調査では、お住いの町名を尋ねています。また、校区情報もあるため、調査項目として新しく設けることはせず、困り事や求めている施策等を校区別のクロス集計として分析をさせていただきました。</p> <p>続きまして、在宅介護に関するアンケート調査ですが、ヤングケアラーに関する設問を設けてはどうかというご意見については、「主な介護者以外に30歳未満の人が</p>

いるかどうか」という設問と、「いる場合には、その人がどのような介護をしていますか」ということを尋ねる設問として反映いたしました。

最後に「入所・入居を希望する施設」の選択肢として、養護老人ホームを設けていただきたいというご意見については、選択肢として、養護老人ホームを加えています。以上が、前回の審議会のご意見の調査への反映のご報告となります。

続きまして、調査の結果のご報告となります。資料3、資料4、資料5をご用意ください。主に、資料3を用いて報告いたします。

市民向け調査の結果ですが、報告書案については資料4と資料5をご確認ください。なお、最終的な報告書については、両調査をまとめて1冊の報告書とします。全ての調査項目をご報告するには内容が多岐にわたってしまうため、本日のご報告では、資料3のスライド2の①～③の3つを報告いたします。資料4、5の該当ページについても、タイトルの横に記載していますので、あわせてご参照いただければと思います。

まず、第8期計画で指標としていた項目は、6項目になります。この6項目について、達成・上昇・低下の3段階で評価をします。達成は、目標値を達成したものの。上昇は、目標値は達成していないものの、目標値に近づいたもの。低下は、目標値を達成しておらず、目標値から遠くなったものとなります。

まず、生きがいについて「ある」と答えた人の割合です。資料4の59ページになります。こちらは、目標値を達成いたしました。居住地域別でも、性別・年齢別でも、全ての区分において、前回調査より上昇しています。生きがいの内容については、自由記載となっていますが、前回同様、孫や子どもの成長が最も多くなっています。その次に家族との団らん、仕事、出かけること、知人との交流などが続いています。

続きまして、主観的幸福感の平均点数です。資料4の90ページになります。こちらについては、目標値には達しなかったものの、前回の7.0から7.2点上昇しました。居住地域別、性・年齢別に、全ての区分で、平均値である7点以上の割合が、前回より増加しています。ただし、性別で見ますと、女性は年齢とともに7点以上の割合が徐々に減少するのに対して、男性は65歳以上で急激に減少し、その後横ばいとなっています。

続きまして、介護を理由に仕事を辞めたり転職したりした人の割合です。資料5の19ページになります。こちらは、前回より悪化しています。一方で、「仕事をやめた家族・親族はいない」についても前回より上昇しており、「わからない」と「無回答」が減っているという状況になります。そのため、「わからない」「無回答」を除いて「いる」「いない」のみの割合を下部に記載していますが、前回調査とくらべて「いる」が1.5%程上昇しており、新型コロナウイルスによる雇用への影響もあったのかもしれませんが、仕事を辞めた原因については問うておりませんので、傾向としては「低下」と考えています。

続きまして、地域包括支援センターの認知度です。資料4の147ページになりま

す。こちらは、目標値は達成しなかったものの前回より上昇しています。居住地域別では、安威川以北圏域、安威川以南圏域のどちらの地域も前回より上昇しています。性・年齢別では、50歳から74歳では、維持または増加しているものの、75歳以上では「知っている」「聞いたことはある」と答えた割合が減っています。

続きまして、人生の最終段階の医療・療養について話し合っている割合です。資料4の128ページになります。こちらは、前回より低下しています。概ね、どの区分においても低下傾向となっています。一方で、介護認定者向けの設問では、こちらは質問の仕方が「今後の医療や療養」となっていますが、約58%となっています。

続きまして、認知症に関する相談窓口についてです。資料4の113ページになります。こちら前回より低下しています。主に、安威川以南圏域において、前回調査より低下しています。また、知っている場合、知っている相談窓口としては、地域包括支援センターが増加し、かかりつけ医が低下しています。特に安威川以北圏域では、知っている相談窓口として、かかりつけ医と回答する割合が20%程度低下している状況になっております。

10ページが第8期計画で指標としていた項目の総括になります。達成が1項目、上昇が2項目、低下が3項目となっています。「生きがいがある」や「幸せかどうか」など、生活の楽しみを持つということでの指標については、全体的に上昇しています。また、高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターの認知度は上昇しました。しかし、人生の最終段階についての話し合いや認知症に関する相談窓口、介護が必要になった際に仕事を辞めた人の割合が増えるなど、何かがあったときへの準備については、低下しています。特に、75歳以上の後期高齢者で、指標としていたものに限らず、「知っている」という割合が減っている傾向があり、コロナ禍で講座等での周知が行えなかったため、低下した可能性があると考えています。

続いて、今回の調査で新しく設けた項目についてです。まず、外出控えについてですが、資料4の35ページ以降になります。「外出を控えている」という回答が全体の約40%となっており、年齢が上がるにつれて、その割合は上昇しています。外出を控えている理由としては、コロナの感染予防が最多となっており、30ページや34ページの外出に関する項目が前回から悪化していることから、外出控えによる身体機能の低下などが懸念される状況です。

続きまして、周囲とのつながりについてです。資料4の80ページです。性別で見ますと、男性は女性と比べて低くなっています。また、年齢が上がるにつれて高得点の人が減少する傾向にあり、男性では、65歳以上で「とてもつながっている」が急激に減少します。世帯構成別では「1人暮らし」で高得点者が減少し、他の区分では1%前後の「まったくつながっていない」が、7%程度と大きく増加しています。また、91ページになりますが、「つながっている」の点数が高い人ほど「幸せである」の点数が高い傾向にあり、つながりづくりが、幸福度の向上につながる可能性があります。

続きまして、かかりつけ医療機関についてです。資料4の99ページからです。かかりつけ医療機関を持つ人は、年齢とともに増加する傾向にあります。また、資料中には掲載していませんが、もの忘れが「ある」と答えた人のうち、かかりつけ医療機関が「ない」と回答した人は12.8%となっており、そのうち、認知症に関する相談窓口を「知らない」と回答した人は88.6%となっています。「かかりつけ医がない」が必ずしも病院に通院していないというわけではございませんが、回答者全体のうち5%弱が、もの忘れがあるものの、かかりつけ医がなく、認知症に関する相談窓口を知らないと回答していることとなり、もの忘れについて相談がされないまま進行するリスクがあることとなります。

また、お薬手帳についてですが、資料4の105ページになります。こちらは、65歳以上の人では、8割以上の方が紙のお薬手帳を利用しており、高齢者にかかわる人の情報共有の手段として、お薬手帳は活用できる見込みが大きいと言えます。

ICTについては、75歳未満では86.8%がスマートフォンをもっており、また、75歳以上でも約半数が持っているとの回答でした。一方で、27.7%は、スマートフォン以外の携帯電話を持っているとの回答でした。地域別には、どの地域でも70%程度の方がスマートフォン、15%程度がスマートフォン以外の携帯電話を持っているとの回答でした。講座への参加希望については、65歳以上で割合が増え、また、年齢が上がるにつれて「有料でも参加する」という割合が増えております。希望する講座の内容については、概ねどの年齢・地域でも、「安全に利用するための知識」「生活で利用できるアプリケーションの紹介」「LINEなどのSNSの利用方法」が上位となっています。一方で、65歳以上では「スマートフォンの説明」「基本的な操作の説明」「電話やメールのやり方」など、操作方法に関する講座を希望する人も多くなっています。

新型コロナウイルスによる生活の変化については、143ページから146ページです。いずれの設問でも、年齢・地域に関わらず「変わらない」が最多となっています。しかし、「周囲の人とのつながりが減った」「地域活動への参加が減った」という回答が一定数存在します。IT機器の活用については、65歳未満では「増えた」と回答する割合が3割ほどであるものの、75歳以上では「減った」のほうが、「増えた」より多い結果となっています。これらのことから、コロナの影響により、周囲の人とのつながりの減少や地域活動への参加の減少により、生活不活発によるフレイルや、つながりが減ることによる幸福度の低下につながる恐れがある状態と認識しています。

続きまして、令和3年11月に新鳥飼公民館に併設した地域包括支援センターの鳥飼分室の認知度ですが、市全体では7.1%となっています。しかし、圏域別に見ると安威川以南圏域が10.2%と、市全体より高く、中学校区別には、第2中学校区が10.8%、第5中学校区が16.4%となっており、主に鳥飼地域を中心に一定の周知が行えています。

	<p>資料5の9ページと16ページで、30歳未満の介護者の有無についてですが、記載のとおりとなっています。前回の調査では主な介護者で20歳未満、20代という回答は0人でしたが、30歳未満の介護者は一定数いるという結果になっています。行っている介護としては、「外出時の付き添い、送迎等」「その他の家事」が多くなっています。一方で、主介護者では「食事の介助」、主介護者以外では「食事の介助」「排泄」等の身体介護を行っているという回答もあります。</p> <p>資料5の51ページから53ページです。在宅介護実態調査での人生会議についての質問では、本人向けの質問では、要介護度が上がるにつれて「話し合っている」という割合が増加し、どの介護度でも、話し合った相手としては「家族」が最多となっています。また、話し合った相手として「医療介護関係者」は、要介護度が上がるにつれて増加し、特に、要介護1・2で10%ほど増加します。一方、家族向け調査では、要介護度に関わらず「話し合っている」と回答する割合は6割ほどとなっており、本人の年齢が高くなるほど、話し合っているという割合は低くなっています。</p> <p>最後に、中学校区ごとのニーズについてとなります。こちらについては、スライド21に記載4つの設問について掲載しています。「今後充実してほしい施策」については、ニーズ調査と実態調査の両方で設問を設けていますので、2つに分けています。内容についての説明は割愛させていただきますが、どのスライドについても、上位5項目を掲載しています。市全体で上位となっている項目に色をつけており、中学校区別の中で同じ回答がある場合は、セルを同じ色で着色しています。掲載スペースの関係で割合などは載せられていませんので、ご了承くださいませと幸いです。22ページで介護保険制度外で利用したいと感じる支援、23ページで地域や自宅での生活を続けていくために必要な支援、24ページで今後充実してほしい施策、主に元気な方向への調査の結果になっております。25ページに今後充実してほしい施策、要介護認定者向けの調査となっております。最後の26ページに現在困っていることや不安などの元気な方向への調査の結果を載せております。</p> <p>以上が市民向け調査の結果についての報告となります。時間の都合で、一部の設問のみを抜粋する形での説明となりましたが、そのほかの設問についても、ご意見等がございましたら、いただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>毎回、この調査報告書が来ると、皆さんの目が遠くなっていくのですが、今回はその中でも特に重要な部分を抜粋してわかりやすく説明して下さったと思います。どの部分でも結構ですので、ご質問やご意見をよろしく願いいたします。</p>
委員	<p>資料4の3ページ、性別のところですが、前回調査の男性57.8%で女性が41.5%になっているのですが、これは逆のような気がします。普通、性別は女性のほうが多いイメージがあるのですが、これは合っているのでしょうか。</p> <p>もう1点が17ページの問1、5-1ですが、ここで、その他（老人福祉センターせつつ桜苑等）と記載がありますが、今、老人福祉センターのお風呂はコロナの感染防止のためにお休みで、使われていないはずなので、「その他」というのはどこが含</p>

	まれるのかということでの質問です。
事務局	<p>性別について、逆ではないかということと、入浴施設のその他がどこなのかというご質問にお答えします。</p> <p>性別については、集計自体は合っていると思うのですが、調査会社で改めて確認をして、次回以降で回答いたします。ちょうど前回の報告書が手元にあるので確認したところ、前回は男性が57.8%でした。また、前回の調査結果に前々回のものをご載せられておまして、そちらについては男性が43.4%となっています。無作為抽出の結果という形ではないかと考えております。ただ、正しい回答については次回ということにさせていただきます。</p> <p>2点目の「その他」の場所がどこなのかということについては、その他の場所の記載内容を手元に持ち合わせていませんので、申し訳ございませんが、どこかということをご即答しかねます。特に、安威川以南圏域でその他という回答が一定の割合があったということで、その他の場所がどこなのかは私も思い当たらず、こちらについても、次回、お調べした上でお答えします。</p>
会長	安威川以南のその他について、安威川以南で施設のある委員はいかがでしょうか。
委員	<p>老人福祉センターがお風呂をしていないということなので、老人福祉センターの名前を消したほうが良いと感じました。</p> <p>話は変わりますが、私は毎回、摂津市内で一番大事なポイントは社会福祉協議会と地域包括支援センターの存在と訴えてきています。そもそも、目標数値自体が低すぎるのではないかと思います。令和5年度の目標は22.5%です。無作為抽出の調査で何人回答したかによりますが、100人、200人ぐらいしか知らないなら、地域包括支援センターや社会福祉協議会が、何をされていて、どのような援助をしてくれるのかということをご、市民にしっかり伝えていく必要があると思います。当法人が居住支援をする中でも、地域包括支援センターや社会福祉協議会がかなり絡んでいますが、それを知らない人たちが多くいるので、この目標数値を高くして、達成しなかったらなぜだろうということをご話し合っていかなければ、低い目標を達成しているからと満足していたのではあまりよくないと感じます。社会福祉協議会や地域包括支援センターが何をされているかということをご市民に伝えるような形で取り組むべきではないかと思います。ちょっとこの数値が低すぎるのではないかと考えていますし、上がっているからといって満足していません。上がっていると言われても、そんなに上がっているのだろうかと思いません。</p>
会長	この指標の項目の総括のところでは、介護離職や特に認知症の相談窓口の認知度が低下というのは、コロナ禍ということではありますが、やはり認知症についての取組はもう少し活性化する必要があり、現状では課題があると思わざるを得ません。また、認知症についての取組ということも、もちろんいろいろな部署がありますが、その中でも地域包括支援センターと社会福祉協議会の役割は大変大きいです。
オブザーバー	資料4の147ページを見ていただくと、「聞いたことある」というものを含めると

	<p>50%を超えているという状況でもございます。「知っている」という 20%前後の数字を抽出したような説明になっておりますが、我々としては認知度を上げていくということは日々取り組んでおりまして、その結果も含めて少し、2 番目にある「聞いたことはあるが内容までは知らない」という部分が増えているのかなと認識しております。</p> <p>内部資料ですが、平成 29 年度には 1 中、3 中校区の相談が 400 件でございました。令和 3 年度は 489 件の相談件数です。安威川以南の特に 2 中校区、4 中校区、5 中校区につきましては、相談が平成 29 年度は 253 件でしたが、令和 3 年度には 418 件ということで、特に 2 中校区、5 中校区は倍以上の相談件数になっている状況でございます。まだまだ周知をしていかなければならないということは認識しておりますが、相談件数も増えている状況でございますので、ご説明をさせていただきます。</p> <p>周知についてはいろいろと市とも相談しており、やはり歳をとられるとアナログも重要だろうということで、市が毎月出している広報紙に高齢者がよく見られるページがございます。そこに、できる限り我々も資料を提供いたします。広報紙に「地域包括支援センター」と文字を出していただくように、市とも協議もしておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>地域包括ケアシステムというのは、確かに市役所及び地域包括支援センター、社会福祉協議会の 3 つが非常に重要ではあります。しかし、この 3 つだけが頑張るのではなく、ここが中心になりながらいろいろな関係部署、福祉関係以外の団体も協力し合うというシステムです。中枢であることは間違いありませんし、ここを応援していくためにも、改めて言わせていただくと、暮らしの応援協議会を開催できていないというのは非常に大きな問題です。確かにコロナ禍ということではありますが、他市では開いています。工夫のしようはありますので、地域包括支援センター、社会福祉協議会の知名度も上げつつ、いろいろな方々が社会参加をしていただくような輪づくりは改めて必要であると思います。そう言いながらも、私も社会福祉協議会の理事なので責任を感じております。</p> <p>皆様からご質問等いかがでしょうか。</p>
<p>副会長</p>	<p>とどめで言って悪いですが、認知度をもう少しアップするように、来年頑張りましょう。高齢介護課がもっと応援してあげないといけないのではないですかと思います。</p> <p>スライドの 6 で介護を理由に仕事を辞めたり、転職した人の割合、これが気になります。摂津市は低下しているわけですが、実は全国調査では、離職者は減っている傾向です。要は、介護しながら就労する人が増えている傾向にあるという調査結果だったと思います。摂津市でも、そこは少し考えないといけないのではないかと思います。介護基盤の整備を充実させればいいのか、施設をたくさんつくればいいのかというと、摂津市はそうでもないと思います。あとは職場環境を整備するかですね。それ</p>

	<p>は摂津市内の会社や企業にお願いできるかということと、もう一つは後のことにも関わってくるのですが、相談窓口や家族支援の充実がすごく必要だと思います。でも、この報告書がすごくよくできていて、私はこれからすごく課題が見えているなと思います。適切な介護サービスが受けられていない高齢者といいますが、サービスにミスマッチがあるのではないかと思います。摂津市はある程度の介護サービスがそろっているのに、それが実際のニーズとマッチしていないのではないかと思います。要は、介護サービスのあり方や内容をもっと検討していかないといけないのではないのでしょうか。ケアマネジャー部会や介護保険事業者連絡会でもこういうデータをみんなで共有して、実はどこかでケアプランのミスマッチが起きているのではないかと考えていただきたいです。確かに、コロナ禍で仕事がなくなった人もいますが、リモートでやっている人もいます。私はこのデータが今後の摂津市の課題の一つになるのではないかと思います。</p> <p>あとは、主観的幸福感はすごくアップしているからいいと思いましたが、女性は年齢とともに減少していくというところは、私の視点から見れば、健康寿命を延ばしていくことが必要と言えます。それから言うと、スライド 10 の総括のところでは摂津市の課題を箇条書きにしていますが、確かに病院に来るのが遅いです。来て、頭の CT を撮ったり、もの忘れの検査をしたりしたら認知症の判定が出てくる人が結構多いです。だから、これを読んでいると、認知症がいろいろなことでリスクになるという意識をもう少し事前に持っていただけよう周知していただきたいと思います。コロナ禍では、病院に来ることを、みんなとても控えられていました。行ったらコロナにうつるという偏見もあったりしました。医師会の先生にも今回の結果の情報を共有して、もっと受診させるようにしてほしいです。医療政策は、リフィル処方箋や受診しないようにという傾向にもありますし、そこは難しいところなのですが、オンライン診療などもできるので、やっていったほうがいいと思います。</p> <p>また、私が面白いと思ったのは、13 ページのつながり、関係性を持つ人ほど幸福感が高くなるということです。まさしくこれです。これを読んで、私「そうよね」って感動しました。</p> <p>最後に、お薬手帳は今、ほとんどの高齢者の方は持っています。そこにもう少し介護情報も記入してほしいというのが医療機関からの素直な意見で、どこのケアプランセンターとか、ケアマネジャーは誰と聞いても、高齢者の人は答えられなくて、ご家族に至っては誰だったかなという感じです。9割方持っているお薬手帳をもう少し薬剤情報以外にも有効活用していただきたいのが現場の意見です。</p>
会長	<p>他市ではお薬手帳のサイズにいろいろな高齢者の情報をセットにした冊子をつくっておられるところもあります。皆様、いかがでしょうか。特につなぎりというのは社会的孤立が非常に大きな課題にもなっておりますし、また介護にも直結しています。そういったところで言うと、性差もかなり出ていまして、スライド 13 ですが、特に男性では 65 歳以上で「とてもつながっている」が大きく減少というのは、退職</p>

	<p>が大きいのではないかと思うのですが、そういう点からシルバー人材センター代表の委員、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>私自身ももう少しで65歳を迎えるので、孤立していくのかなという寂しい思いもありますが、できるだけ社会参加が必要と感じています。男性は特に社会参加が下手で、企業や仕事を持っている方はよいと思いますが、なかなか自分から出ていこうということはないのかなと思います。今、私はシルバーで仕事をしております。女性会員よりも男性会員が多いのですが、できるだけ仕事を通じて横のつながり、仲間を増やしていただくというふうに会員募集もかけていますが、やはりコロナが一番痛いんです。仕事だけの付き合いだけでシルバーに入ってみようかなではなくて、同好会活動や地域活動、ボランティアという活動で興味を持ってもらって、シルバーに入っていれば、楽しくつながりが持てると思っているのですが、なかなか会員も増えてこない現状で、苦戦しております。何か魅力を発信できるように、今日いただいた資料を使わせていただいて、会員にも何かしら情報提供をしていきたいと感じました。</p>
会長	<p>就労支援のニーズもそれぞれ期待されていたと思います。社会参加という点で言うと、老人クラブの取組はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>まず、全体的な話からしますと、摂津市の市民は今8万5,000人ぐらいですかね。そのうち65歳以上が2万3,000人。そのうち老人クラブに入っておられるのが2,200人ぐらいです。</p> <p>まず、最初の資料から申し上げますと、地区的に公平感の欠けるような地域割りになっているのではないかと感じます。いろいろな制度をされているのかもしれませんが、その制度が浸透していない。例えば、私は鳥飼八町に住まいを設けていますが、ここにはほとんどニュースが流れてきません。バスも通っていません。公共のバスは通っていますが、市が供給するバスは通っていません。ここに85歳前後の人が20人ぐらい住んでいます。こういうところに一切の情報が流れてこないというのは、非常にまずい動きをされているのではないかと思います。鳥飼八町だけかなと思いますが、鳥飼上のほうも同様だと思います。千里丘のほうは私のところに情報が入っていませんのでわかりませんが、多分そういうところが、地区的にはあるのだろうと思います。そうすると、必然的に、幾らこういうデータをとっても、今申し上げた2万3,000人を対象としているその中で、こういう病気とか対象になる人というのは、その中の1割ぐらいではないかと思います。病院通いする人は、私も含めて、たくさんいるでしょう。そうなってくると、あまりデータ一辺倒でやるよりも、いかに地域の方々や隣近所で、向こう三軒両隣と言いますか、昔のようにしっかりと隣の情報を知っていると、隣近所のことがよくわかるとか、そういう輪の広がりが重要になってくるのではないかと思います。今まで聞いていると、そこに一つもメスが入っていないように感じます。認知症の人にはどう、車いすの人にはどうという会話がなくて、もっと原点をしっかりと見つめて、地域の人をつなぎづくりをやらないと前</p>

	<p>に行かないのではないのでしょうか。会長がよくおっしゃっているように、いかに地域のいろいろな団体を使って、相互の団体の協力で高齢者分野や介護分野の活性化を進めていくかというのが、原点としては非常に大事なことかなと思います。</p> <p>先ほど質問のあった、老人クラブはどのようなかということですが、14～15年前は5,000人いました。ところが、今は2,200人ぐらいです。人間、歳をとると公平に亡くなっていきます。だから、どんどん新しい人が入ってこない限り減っていきます。2050年には日本の総人口は今から比べると3,000万人ぐらい減ります。増える要素がないです。減っていくのですが、そこに情報の共有があって初めて住みやすい環境の市ができるということですよ。摂津市はL字型の地域の狭い範囲ですから、もっとお金をかけずに充実したものができてもいいのになと常々思っています。ですので、視点を少し変えて、向こう三軒両隣、小さなグループからこういうものにつなげていけたらいいのだろうなと思っています。私自身がまだ勉強不足でわかりませんので、この程度しか言えません。</p>
会長	非常に貴重なご意見、ありがとうございます。事務局、お願いします。
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。向こう三軒両隣のように、地域の人々のつながりが重要というご意見だと思います。事務局としても、つながりが重要であるという認識もありまして、今回の調査でつながりに関する質問などを設けております。スライド13に周囲の人とのつながりについてということで書かせていただいております、こういう方が点数が高い、あるいは低いという形で書いております。行政としても、そういった方のつながりづくりというところを次期計画に向けて模索していきたいと考えております。</p> <p>また、本日ご参加の委員の皆様も、おそらく地域の中で活動されていたり、あるいは個人であっても周りの人とのつながりがあるかと思います。行政としても取り組むことはもちろんですが、もう一点、市民一人一人が自分のできる範囲で近くの人にちょっとした情報を伝えていただけるよう、周知していければと思っています。ただ今いただいたご意見の問題認識を持った上で、次期計画も策定させていただきたいと思っています。ご意見ありがとうございました。</p>
会長	<p>私は第9期計画ができる5期の間計画に携わることになります。第5期からですが、それ以前からおられる方や、ご協力くださっている方もいらっしゃると思いますが、今期に入って、今日の資料にもあるように、エリアを非常に大切にしようという考え方が徐々に進んでいます。鳥飼の分室ができたのも8期からの大きな変化です。私自身も先日、つどい場の関係で、第21集会所周辺を初めて自転車で行って見て、鳥飼もこんなにいろいろな町があるのだなということを感じたところです。そういった地域ごとの違い、特性を踏まえながらの取組が第9期においても非常に重要だと思います。冒頭の委員のご意見の中でも自治会の解散というものが実は起こっていて、それが住民の方、認知症の方にも直結していることでもあるとのことでした。そこも踏まえて暮らしの応援協議会の活性化や、全市の協議体だけではなくて、</p>

	<p>せめて北と南に分けて、特に南の暮らしの応援協議会の立ち上げということも、また9期では果たしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>皆様、ほかはいかがでしょう。</p>
副会長	<p>総合事業の評価も8期ではすることになっていると思いますが、総合事業の評価はやっていきますか。</p>
事務局	<p>総合事業の評価ということで、要支援者向けの支援や一般介護予防事業の評価になってくるかと思います。今回、アンケート調査ということで、例えばつどい場に参加しているかというところや、アンケートとは別になりますが年間の指標として年齢階級ごとの要介護認定率をとっております。そちらは改善傾向になっております。一般介護予防の取組としましては、同じ年齢階級で介護認定を受けている人が減っているイコール介護予防が進んでいるという認識ではあります。ただし、先ほどの地域包括支援センターの認知度の件でもありましたが、少し指標が改善したからそれでいいのかというところもあるかと思いますので、より介護予防を進めていくためにはどういう施策に取り組んでいくべきなのかというところは、次期計画の中でまたご議論をいただき、取り組んでいきたいと思っております。</p>
副会長	<p>総括のところにはそれは一言入れたほうがいいのではないですか。</p>
事務局	<p>そうですね。私も要支援の方はすごく心配しています。これは資料3で表面的にはよくなった、悪くなったというのが書いてあるのですが、本当にそうなのかということがあっております。例えば資料4の35ページは私が一番大事なポイントで今後の課題だと思っているところで、外出を控えていますかというのがあります。今回コロナ感染予防で外出を控えているということで、35ページの75歳以上を見ると半分の方が控えているということと、要支援1、2の方に限って見ると80%以上の方が控えています。これは表面的にはいろいろ、つながっていますとか、よくなっているのですが、本当にそうなのかというのがあります。介護の事業者にも聞きますと、デイサービスなどで利用がコロナ前より戻ってきていないとか、利用が増えていないとか、そういったこともあります。きちんと介護保険を利用すべき人が利用できてないのではないかということもあり、ミスマッチや介護サービスが受けられなくなっていないとか、それによって家族の介護負担が増えていないか、それによって介護離職につながっていないかといういろいろ想像すると、あまりいいことがないのかなという気もします。表面的なことは、それはそれで置いておいて、実態はどうなのかということは9期に向けて見ていきたいと思っております。</p>
委員	<p>1つだけ質問ですが、資料4の131ページの災害時の対応についてあります。昨今、いろいろなニュース番組で南海トラフがここ30年以内に7~8割の確率で起こりますよとか、高槻を震源とする地震が起こったとか、そういう地震、風水害が今後も起こると思います。しかし、起こったときにどう動いたらいいのか、どこへ助けを求めたらいいのか、そういうものがほぼ出てきていなくて、ここにデータがありますが、安全な場所まで自力で避難できるかわからないとか、一番多い回答がこれかとい</p>

	<p>う感じがするのです。どこに連絡して、誰に助けを求めるのか、というところは触れられていないということが非常に残念なことです。ここはしっかり、どんないい状態であったとしても、緊急避難の文言は要るのではないかと思います。ぜひとも、そこは検討してみていただきたいと思います。</p> <p>それと、こういう議論の場がありますが、あまり事前に相談したり話をしたりする窓口が、ありそうでないです。例えば、病気を持っていて、これからどういう介護を受けるかもわからないし、自分の体にどういう不利益なことが起こるかとか、制度のことでこんなことを知っておきたいとか、そういうことの窓口は市役所の1階にありますが、事前相談窓口みたいなものがないです。だから、いわゆる震災なども含めて、自分の身体的なことや、隣近所のこともあるでしょう。そんなことも含めて、そういう窓口があると市民にとっては親しみがわくのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>最後のご意見は暮らしの保健室のような、身近な相談場所をどう広げていくのかということだと思います。8期の計画にも載っていたと思いますし、今回はアンケートの結果なので、これを受けて、では具体的な取組が摂津市ではどこまでできているのか、第9期でどこまでやっていくのかということになると思います。堤防のところに災害の拠点ができても、そこに移動できないと困るわけで、そういったことを次回以降皆さんと一緒に検討していく予定だと思います。非常に大量のデータがありますので、今回ご意見やご質問ができなかった方は、また後ほど高齢介護課に寄せていただければと思います。</p> <p>案件2はここまでとさせていただきます、案件3のその他を事務局から説明をお願いします。</p>
2.議事 (3) その他	
事務局	<p>資料6「令和4年度 地域密着型サービス事業者の公募について」をご確認ください。事前の案内では「地域密着型サービス事業者について」としていましたが、公募をしていたものの応募がなかったため、その旨の報告のみとさせていただきます。</p> <p>本日お配りしています「私のエンディングノート」ですが、1,000部限定の配布となっております。非常に好評でして、残部が少なくなっています。そのため、何かの機会に既にお持ちの方については、ご返却いただけますと幸いです。</p> <p>また、本審議会の委員の任期は3年となっており、3月末で委員の任期は終了となります。3年間、ありがとうございました。参考までに、3月13日時点で、今回で退任予定の委員が4名いらっしゃいます。これまで、どうもありがとうございました。</p> <p>次回の審議会は、7月頃に開催する予定です。引き続き委員となられる方は、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>最後にご紹介がありましたが、退任される委員の皆様には、本当にお世話になりました。ご闊達なご意見ありがとうございました。</p> <p>では、本日はこれにて終了といたします。どうもありがとうございました。</p>
3.閉会	

